3-6. 防災拠点計画

安心・安全、災害に強い庁舎

- 地震や水害などの災害発生時には、新庁舎の低層部を市民への情報発信の場として、また、上層部を災害対策本部など対策拠点として位置づけ、エリアにより役割を分散した明確な防災計画とします。
- 新庁舎の基礎と建物の間に免震装置を設置し、首都直下型地震にも耐えることのできる基礎免震工法を採用します。
- 地震時における強い揺れや、長周期地震動のような大きく長い揺れに対し、執務室などの大空間においては、天井仕上げ材のない直天井とし、天井仕上材や設備機器の落下等の被害を最小限にとどめる計画とします。

河川氾濫等の水害に強い庁舎

- １階床レベルは、前面道路よりもかさ上げし、床上浸水への対策を行います。
- 中央監視室は、重要機器の冠水を避けた２階に設け、水害発生時にも庁舎機能を維持できる計画とします。
- 電気室や発電機、高置水槽は、冠水の影響を受けない建物の上階に設けます。

災害時の機能維持（BCP）

- 災害時には、必要最低限の業務を続けられるように災害対策本部や罹災証明等の窓口には、自家発電機により機能を確保します。
- 災害発生に伴う停電、発生後の計画停電の備えとして、2回線（異なる変電所）からの電力引き込みを行います。また、屋上に設置した非常用発電機により３日間の庁舎機能の維持を行える計画とます。
- 給水方式においては、高置水槽の採用、トイレ洗浄水は雨水利用とし、汚水については一時的な貯留ができる非常用汚水槽を設けるなど、災害活動を維持できる計画とします。
- 空調機や熱源のエネルギーとして利用するガスは、地震被害に強い中圧ガスによる引き込みとします。

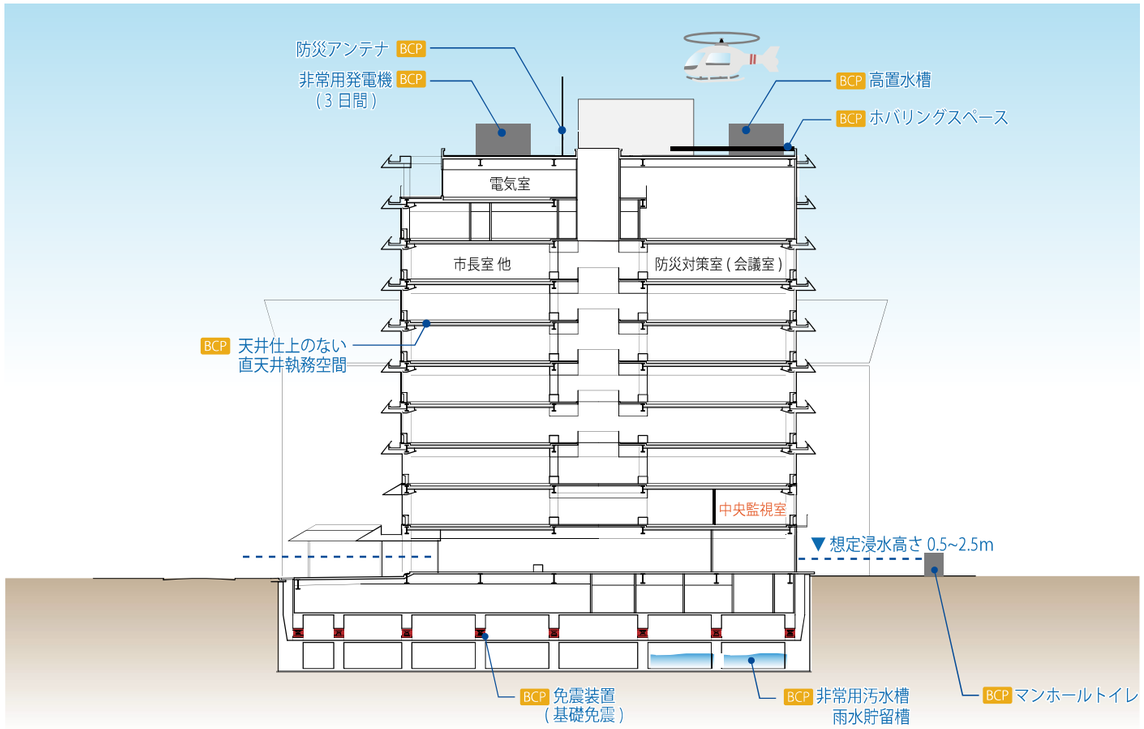
※BCP…業務継続計画（災害時においても、必要最低限の業務を続けられるように計画すること）

災害発生後の対策拠点

- 災害時の意思決定を司る市長室と活動拠点となる災害対策本部は、同じフロアに配置し、迅速な災害対策活動を行える計画とします。
- 危機管理課や防災無線室は、災害対策本部と隣接して配置し、直接出入りできるなど、連携の強化を図ります。

防災備蓄計画

- 災害活動を実施する上で最低限必要な飲用水等を確保します。

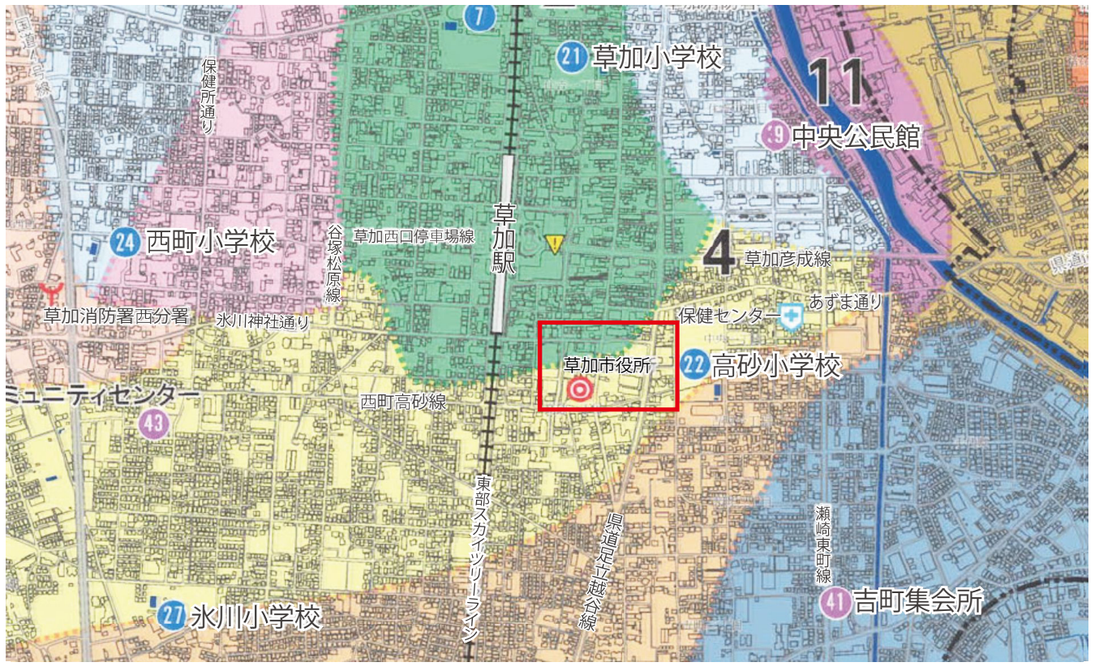


【防災断面図】

気づきマップで確認した色の番号	利根川 がはん濫したら	江戸川 がはん濫したら	中川 綾瀬川・元荒川 がはん濫したら	荒川 がはん濫したら	芝川・新芝川 がはん濫したら
1	1階床下		1階床下		
2	1階床下		1階床下	1階床下	
3	1階床下		1階床下	1階床上	1階床上
4	1階床下		1階床上	1階床下	1階床下
5	1階床上		1階床下		
6	1階床上		1階床上	1階床下	
7	1階床上		1階床上		
8	1階床上		1階床上	1階床上	
9	1階床上		1階床上	1階床上	1階床下
10	1階床上		1階床上	1階床上	1階床上
11	1階床上	1階床下	1階床下	1階床下	
12	1階床上	1階床上	1階床上	1階床上	
13	2階床上	1階床上	1階床上	1階床上	

対象計画地

【草加市ハザードマップより】



【草加市ハザードマップより】

3-7. 環境配慮計画

光・風・雨を活用したエコロジカルな庁舎

・光や風の自然エネルギーや雨水をできるだけ活用し、自然環境が豊かな草加にふさわしいエコロジカルな庁舎を実現します。

自然通風・自然採光に効果的なエコボイド

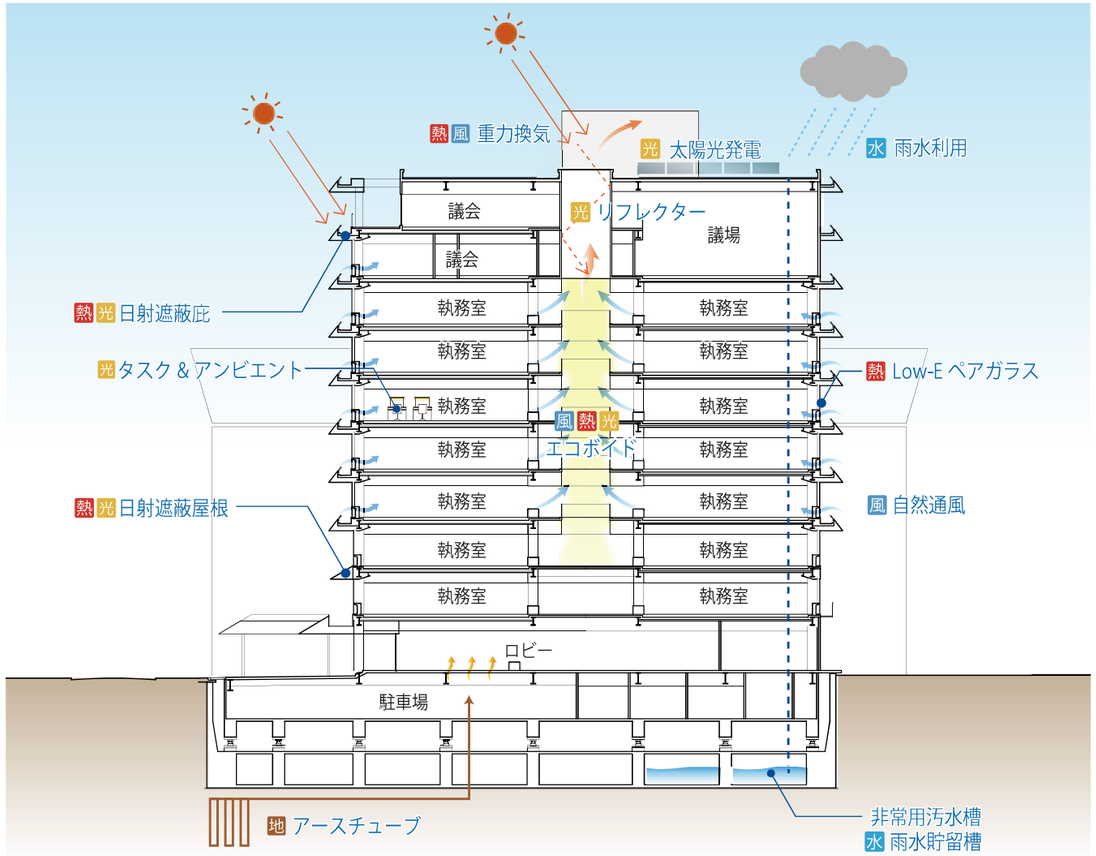
・エコボイドを利用した重力換気により、自然通風を有効に活用します。
・エコボイドの壁面をリフレクター（反射壁）とすることで、トップライトから３階まで明るい自然光を導きます。

タスク＆アンビエント照明

・アンビエント照明で部屋全体の最低限の明るさを確保し、作業に必要な場所には、タスク照明を用い、効率的な電力の運用を図ります。また、アンビエント照明は、天井に光をあてることで、光源のグレア（まぶしさ感）を抑えるとともに、少ない電力で室内の明るさを確保します。

最適な省エネ計画

・費用対効果を十分に比較検討し、最大限効果を発揮できる省エネ計画とします。



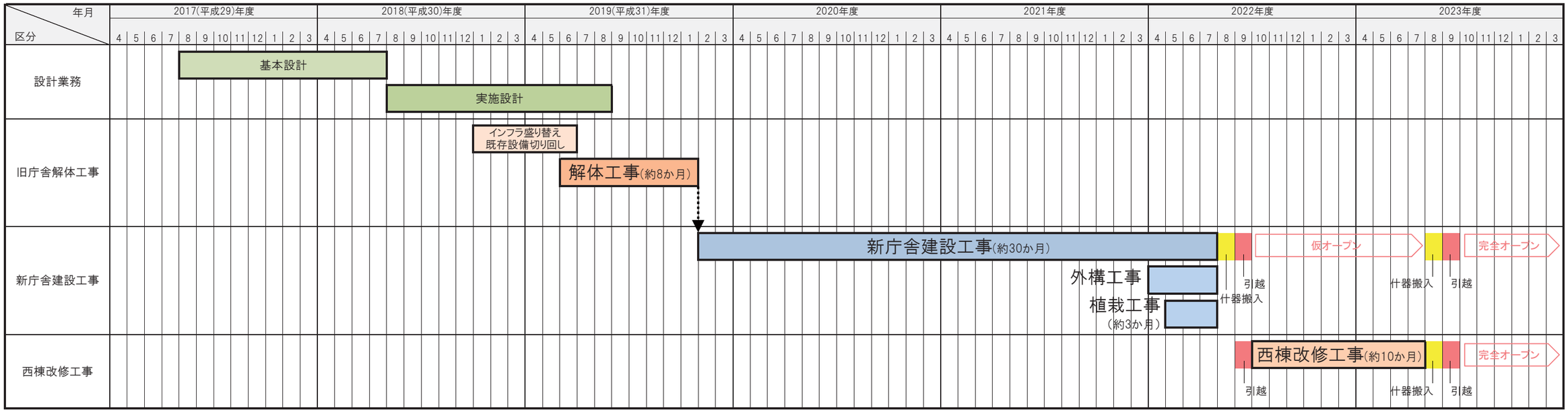
【環境配慮計画イメージ】

環境への配慮の為の取り組み一覧表

		環境配慮取組事項	取組内容
1.建築物の熱負荷の低減			
	①	建築物の形状、配置	南北軸に平行な執務室の配置による熱負荷の低減
	②	高断熱・高気密	屋上緑化、高断熱外皮（Low－Eペアガラス、断熱強化）
	③	日射遮蔽	ライトシェルフによる日射カット
2.再生可能エネルギーの利用・変換利用			
	①	自然採光	執務室における自然採光、エコボイドによるトップライトからの自然採光
	②	同上	上下別角度調整ブラインドによる自然採光
	③	自然通風・自然換気	エコボイド（吹抜け）を利用した執務室、共用部の重力換気
	④	ナイトパージ	エコボイド（吹抜け）を利用したナイトパージ
	⑤	地熱利用	敷地内地中および、地下ピットを利用したアースチューブ
	⑥	太陽光発電	太陽光発電（新規20ｋW）＋蓄電池
3.省エネルギーシステム			
	①	高効率熱源	高効率型の空調機を採用
	②	送風動力の削減	変風量制御（VAV）、変流量制御（VWV）
	③	再熱エネルギーの削減	ヒートパイプ組込型除湿空調
	④	換気量制御	CO2濃度センサーによる換気量の制御
	⑤	空調（執務室）	耐震性能で有利な床吹き出し空調方式を採用。
	⑥	高効率照明器具	新庁舎全ての照明器具にLED照明を採用 タスク＆アンビエント照明方式の採用 （空間の明るさを確保するLEDアンビエント照明と手元の明るさを確保するLEDタスク照明の併用）
	⑦	照明器具の制御	昼光連動調光システム（照度センサー）、昼光連動発停システム（明るさセンサー）、在館検知システム（人感センサー）、タイムスケジュール制御システム（中央制御）による照明制御
4.効率的な運用			
	①	計量、エネルギー管理（BEMS）	BEMSの採用
5.資源の適正利用			
	①	エコマテリアル	再生骨材を利用した躯体、 再生木デッキ（テラス等に使用）等のエコマテリアルの利用
	②	オゾン層保護、地球温暖化抑制	ノンフロン吹付断熱材の利用、オゾン層破壊を伴わない冷媒の利用
	③	炭素固定化	県産材を利用した木質空間
	④	雨水利用	雑用水（トイレ洗浄水などの中水）利用、緑化への灌水利用
	⑤	節水型衛生器具	節水型衛生器具の採用
6.自然環境の保全、創造			
	①	雨水浸透	浸透性舗装、雨水浸透トレンチ・浸透ますの設置
	②	緑化、緑の蒸散効果による外気冷却	敷地内緑化

4. 事業スケジュール・概算事業費

事業スケジュール



※ 各工事工程には、準備期間、各種試験・検査期間、長期休暇(正月・お盆・ゴールデンウィーク等)を考慮していますが、地中障害物等の工事遅延要因は見込んでいません。

※ 新庁舎建設工事には、外構・植栽等の工事を含みます。

※ 旧庁舎解体工事には、アスベスト撤去を含みます。

※ 西棟改修工事期間中は、新庁舎は仮設の窓口による仮オープンとなります。

※ 西棟改修工事完成後は、分散している全ての窓口を新庁舎と西棟に引越し、完全オープンとなります。

概算事業費

工事区分	概算費用(税込)	備考
旧庁舎解体工事	3.9億円	インフラ盛り替え、既存設備切り回し、県防災無線移設を含む
新庁舎建設工事	111.5億円	建築工事、電気設備工事、機械設備工事、外構工事、植栽工事
西棟改修工事	2.5億円	

※ 設計費、工事監理費、調査費、移転費、什器購入費等は含みません。